様式３

令和4年度　香南市立幼稚園における学校評価報告書

香南市立香我美幼稚園

経営理念	
	【教育目標】　みかんの里の　げんきっ子
	【経営目標】　『幼稚園における生活の全体から、豊かな体験を通して生きる力の基礎が身につく幼稚園』をめざす
	〈子ども像〉　〇のびのびと明るく元気な子ども　〇自分のことを自分でしようとする子ども　〇友達と心を通わせ思いやりのある子ども　〇自分なりに表現する子ども　〇最後までやり通す子ども
	〈幼稚園像〉　〇子どもの笑顔が輝く幼稚園　〇基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園　〇友達とつながり自主性や社会性を身につける幼稚園 〇身近な自然に親しみ豊かな心情や創造力を育む幼稚園　〇保護者や地域から信頼される幼稚園
	〈教師像〉　〇子どもに寄り添い、深い信頼感や安心感を育む教師　〇楽しい教育活動を工夫する教師　〇環境や人とのかかわりが広がるよう工夫する教師 〇互いに協力してチャレンジする教師　〇人間性豊かで、指導力の向上に努める教師

経営の柱	中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	子どもの姿から発達を捉え直し、幼児理解を深める。	幼児期の発達や幼児期の学びを踏まえた教材を工夫して環境を構成する	子どもの発達に着目し、一人一人に合った環境構成や援助に努めたことで、自分のしたい遊びを見つけて楽しむ姿が見られた。しかし発達を捉えることは難しく、ねらいの設定や発達に沿った経験ができたかという視点では課題が残った。鬼のお面の製作では職員間で協議を行い、発達を捉えながら教材の工夫につながり成果が見られた。	C	幼稚園で制作したものを満足そうに持って帰る姿を見ると、満足できる教材と時間を用意してくれていることを感じた。各年齢ごと、または個人の発達を捉えることは難しく、園の目標に達することはできなかったかもしれないが、そこに向かって保育を進めていったことは評価できる。今後に期待したい。	B	発達を捉えることの難しさについて,今後は文献を使用したり、協議内容の工夫をして、発達に着目しながら教材研究をしていく。
	日々の保育を振り返り、ねらいを意識した環境構成と援助について改善を行う。	子どもの興味関心と職員のねらいをからませた保育の展開	自身で保育を振り返ったり、他の職員と共有し合ったりすることで、子ども理解や環境構成・援助についての見方が広がった。また園内研での協議の切り口を工夫したことで、今までできているつもりだったことの見直しができた。ねらいの設定の仕方やねらいと実際の保育との相違が見られたことに気付いたことは、今後の保育の充実につながると考えている。	C	年齢が低くなるにつれ、月齢などによって個人差が広がり、学級のねらいの幅も広がってくると思われる。ねらいや成果にこだわり、細やかなところを気に留めながら保育ができていた。職員に気付きがあったことは次につながると思われるので今後に生かしてほしい。	B	子どもの興味関心を探り、幼児理解に努めるとともに、PDCAサイクルで確認しながら、ねらいに沿った保育展開ができるようにする。
職員の育成・資質向上や運営	職員が主体性を高め、子どもの姿や状況に応じた保育の改善や提案をしながら安全教育を行う。	危険から身を守るための知識や態度を身につける教育実践	避難訓練については、課題や確認事項ついて意見を出し合い、職員間で共有して子どもに指導することができた。日常生活の中でのきまりやルールは可視化したり、言葉のかけ方を工夫することで、子ども同士で声をかけ合いながら守ろうとする姿がみられるようになってきた。	B	さまざまな想定がされており、主体的に職員が参加しながら安全について気をつけ実施していることがわかった。日々の避難訓練のおかげで、子どもは、想定に応じてどのように動くのかが身についていた。これからも災害に備え自分の身は自分で守ることができるよう指導していってほしい。	A	日常生活の中でのきまりやルールについては、引き続き取り組んでいく。職員の主体性を高め、的確に判断し臨機応変な行動ができることを目指したい。子どもたちも教師から指示を受けるばかりでなく、機会や時間を確保し、子ども自身が気づいたり考えたりして行動できるように育てていきたい。
	幼小連携教育の充実を図り、育ちをつなげる。	幼小の円滑な連携・接続に向けた指導の在り方	小学校への引継ぎ、保育や授業の参観、職員同士の連携はできた。小学校の先生に園内研に参加してもらい、今見られる子どもたちの姿が小学校でのどのような姿につながるのか、また幼児期に大切にしてほしいことなど意見をいただき、共通理解ができた。子ども同士の交流では、幼稚園からの積極的な誘いかけができなかったことを反省している。保幼小の円滑な連携・接続ということに関しては、年間計画をたて計画的に行っていくことが課題である。	C	園内研に小学校の先生が参加されたことは、就学にあたって子どもたちの姿を見てもらえ、幼稚園としての課題も明確になりいい事だと感じた。忙しい中でも互いに時間をつくり、中学校区の研修や推進会議を通して同じ学びをしたり、子ども同士、職員間の交流が実施できたりしたことはよかった。	B	子ども同士の交流は、幼稚園から積極的に誘いかけ、年間計画を立てて計画的に進める。
地域に開かれた園づくり	幼稚園教育や園のことについて関心を持ってもらうため、保護者や地域に対して積極的に情報発信を行う。	保護者、地域に幼児の育ちが伝わる工夫	お便りでは、子どもや行事の様子などタイミングを逃さず知らせてきた。育ちや経験していることについて知らせたことで、保護者にも同じ視点で子どもをみてもらうことができた。地域への情報発信として支所や郵便局への掲示を行い一定できたが、保護者からの反応は少なかったので検討の余地はある。	B	げんきっこだよりやクラスだよりは写真が貼ってあるので普段の様子が見れ、保護者からの満足度も高い。感染症対策のためにできなかったこともあったかもしれないが、行事を園だけで取り組むのではなく、地域の方と一緒に取り組んでいるのでとても良い経験ができている。	A	手紙の発信だけでなく、園のことにかかわってもらうような機会をつくるなど、家庭への働きかけの方法を工夫していきたい。地域への発信も積極的に行っていく。
	保護者と連携し、感染予防と衛生管理に努める。	子どもや保護者の健康に関する意識を高める指導の工夫	感染症や衛生に関する情報提供は迅速に欠かさず行い、園での対応も臨機応変にしたことで新型コロナウィルス感染症の拡大を防ぐことができた。また感染状況や手洗いの大切さを子どもに伝えながら、手洗い・うがいの励行を行ってきた。バイ菌を写真で掲示したり、手洗いの方法を図に示したりして工夫したことが、子どもにとってわかりやすく自らすすんで手を洗う姿につながった。	B	家庭では丁寧に教えられていない手洗いが、ふと見た時指の先まで上手に洗っていて先生方への感謝を感じた。また手洗いをライトで可視化した取り組みは子どもが必要性を感じて手洗いを行うために有効だったと思う。インフルエンザが流行したときは迅速に対応を行い、コロナでも休園にならなったことなどできることをやって十分に成果が出ている。	B	家庭には園の感染状況や、流行している情報についての発信を今後も機会を逃さないように行っていく。子どもの手洗いについては丁寧さに欠ける姿や教師の声がけができていないこともあったので、引き続き指導をしていく。

【評価基準】　Ａ：十分満足　Ｂ：おおむね満足　Ｃ：もう少し努力すべき　Ｄ：大いに努力が必要